

# 尿検査って…?

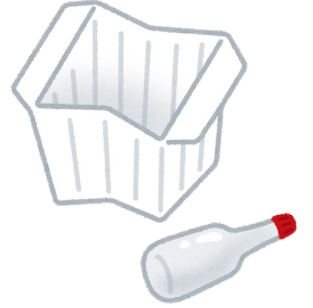
放検査科 山田 佳奈

皆さんは1日に何回トイレに行かれますか？

成人の1日の尿量は体重60kgで1200～1500ml、1日の昼間の排尿回数は4～7回とされています。病院を受診するとよく行われる検査に尿検査があります。

尿検査には、「定性検査」と顕微鏡で調べる「尿沈渣」がありますが、今回は尿検査の中から「定性検査」でどんなことが分かるのかをご紹介します。

「尿沈渣」と「尿比重」については次回で説明します。



## 尿の定性検査について

### 【pH】

尿が酸性とアルカリ性のどちらに傾いているのかを調べます。食事内容や運動などで変動しますが、体の代謝の状態をみることができます。正常腎ではpH5-6の弱酸性です。

### 【糖】

通常、尿中に排泄されることはありません。糖は腎臓で血液から一旦尿に混じって濾過されたあと、腎臓内で再吸収されますが、糖尿病などで再吸収しきれなくなると尿中に出てきます。食事の直後は陽性になりやすくなります。

### 【蛋白】

腎炎を含む多くの腎臓病、尿路系の炎症・結石などの要因が考えられます。健康な人でも、激しい運動や精神的ストレスでも陽性となることがあります。

### 【尿中ウロビリノーゲン】

通常、少量のウロビリノーゲンが尿中に排泄されます。結果が陽性となると肝機能障害や溶血性貧血、便秘などが疑われます。陰性では、胆道の閉塞や高度肝障害などが考えられます。

### 【尿中ビリルビン】

ビリルビンは肝臓から胆汁として消化管に排泄されます。正常では尿中に出ることはありません。急性肝炎、進行した肝硬変、胆管がん・腸閉塞などの胆道の閉塞性疾患で陽性となります。

### 【ケトン体】

ケトン体は栄養を十分に取れていないときに脂肪が肝臓で代謝されてできます。管理の良くない糖尿病、高熱、嘔吐、下痢、絶食、激しい運動後などで尿中に出てきます。

### 【白血球】

腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎などの細菌感染症や尿路結石による炎症で増加します。



このように尿から多くの情報を得ることができます。尿検査は患者様の健康状態を教えてくれる大切な検査です。